

B-4

名詞が程度性を持つとき

—N すぎる構文を通して—

東京大学 佐藤らな

ranasato877@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

名詞が程度性を持つものとして解釈される構文に N すぎる構文 (e.g. 天使すぎる、名探偵すぎる) がある。本発表では N すぎる構文に生起する名詞の特性を考察する。名詞の程度性の解釈にはメトニミーが関わっていること、名詞と形容動詞との連続性は意味を基準に捉えられることを主張する。コーパスによる調査結果から、「-すぎる」の名詞への後接は周辺的な用法であることを明らかにする。特定の性質へのアクセスが慣習的に定まっているものほど、その性質へアクセスしやすく N すぎる構文にとって中心的な位置を占めることとなる。これと並行的に、形容動詞に近いほど、プロファイルシフトする先が慣習的に固定化されており、より名詞的であるほど、性質へのアクセスの慣習性が低い。このような品詞観を取ることで、名詞と形容動詞はプロファイルシフトが慣習化している程度を軸とした連続体として捉えることができる。

1. はじめに

名詞が特定の構文に生起した場合に、(1) のように程度性の解釈を持つ場合がある。そのような構文の一つに名詞に「-すぎる」が後接する N すぎる構文がある。「-すぎる」が「飲みすぎる」や「暑すぎる」「静かすぎる」などのように動詞、形容詞、形容動詞に後接し、ある種の過剰を表すことはこれまでも広く知られてきた (cf. 影山 1993 ほか)。さらに、名詞に後接する場合もある。例えば中村 (2005) は、明治期から戦前の文学作品に (2a) のような例があることを報告している。

(1) ちょい N: ちょい田舎 めっちゃ N: めっちゃ猫

(2) a. 「…名探偵すぎるって…」 (中村 2005: 164) b. 天使すぎるアイドル (佐藤 2019: 107)

佐藤 (2019) は、N すぎる構文の意味は「名詞」の百科事典的知識から導かれる特定の性質に焦点を当て、その過剰を表すと分析している。例えば (2b) であれば、天使の百科事典的知識のうちの「可愛さ」に焦点が当てられ、その過剰を表すことになる。形容動詞と名詞が連続体をなしているという主張はこれまでもなされてきた。しかし、そこで用いられている主張には 2 節で述べるような問題がある。

この問題を解決するために、本発表は、3 節以下、コーパスを用い N すぎる構文に生起する名詞を調査した上で、名詞の程度性の解釈にはメトニミーが関わっていることを主張し、形容動詞と名詞の連続性を意味的に捉える枠組みを提案する。

2. 問題の所在

松本 (2017) は形式的な基準によってある語が形容動詞か名詞かを規定するのは極めて困難であると指摘している。例えば、形容動詞は格助詞を取ることができないと規定しようにも、「正確を期する」などの例外が多くみられ、一様な扱いは不可能である (松本 2017: 141ff.)。また、「の」が後接できるか否かとい

う基準では、「の」がつくならば名詞的であるとも必ずしも言えない。第一に、「の」の前にしか現れない語 (e.g. 若気、狭義) がある (松本 2017)。第二に、「の」が後接しているながら明らかに性質を表している例 (e.g. 緑の帽子) も多い。さらに、「な」が後接するかどうかも確たる基準にならない (e.g. 広島な)。形容動詞と名詞の連続を考察した主要な先行研究 (e.g. 寺村 1982, Uehara 1998) はこのような分類基準に関する問題を抱えている。

近年では、加藤 (2012) のように「体詞」なる新しいカテゴリーを立て、その下位カテゴリーに一般名詞と形容動詞を含める研究もなされている。しかし、やはり「な」が後接するか「の」が後接するかという基準で連続性を捉える限り上記の問題は依然として解消されないままである。同じ語でも「な」が後接するときは形容動詞であり、「の」が後接するときは名詞であるという定義をしたとしても、形容動詞として使われやすい語と名詞として使われやすい語がどのように異なり、どのように関係しているのかを明らかにすることはできない。

本発表では、名詞はプロファイルシフトによって性質を表すようになることを主張する。そのように捉えることで、伝統的に「形容動詞的」とされてきた語と「名詞的」とされてきた語の差をプロファイルシフトの慣習性の違いとして説明できる。また、歴史的変化にも自然な説明が与えられる。

3. コーパス調査

日本語歴史コーパスと BCCWJ の 2 つのコーパス¹を用いて、どのような名詞が N すぎる構文に現れるのかを調査した。国立国語研究所『中納言』を用い、「キー: 品詞 LIKE "名詞%" AND 後方共起: 語彙素="過ぎる"」で検索し、日本語歴史コーパスでは 477 件、BCCWJ では 1741 件の例が検出された。手作業でノイズと思われるもの²を取り除き、前者は 45 件、後者は 947 件の例を分類した。「形状詞可能」とタグづけされているもの、そして複数の辞書 (参考文献に示す) において「形容動詞」とも記載されていることが確認できるものを「形容動詞とも解釈可」とした。動名詞としか解釈できないものや、修飾部を伴う名詞などを「その他」としている。

表 1 調査結果 (件数)

	歴史	BCCWJ
形容動詞可	34	767
一般名詞	2	130
その他	9	50
合計 (件)	45	947

(3) は日本語歴史コーパスにおいて検出された「一般名詞」に後接する例である。コーパス上の初出は (3a) の 1925 年であった。(4) は日本語歴史コーパスにおける初出であり形容動詞可として分類した。形容動詞とも解釈可能な例が圧倒的に多く、「トマト」のように典型的な名詞と思われるものは観察されなかった。

- (3) a. あの少し撫肩すぎる肩付き (1925 年) b. まったく大勢すぎますね (1947 年)
 (4) あんまり律儀すぎるじや (1821 年)

(5) (6) は BCCWJ の例である。(5) は一般名詞に後接する例で、(6) は形容動詞とも解釈可能なものとして分類した例である。表 2 に示す結果から、一般名詞の現れる割合は形容動詞とも解釈可能な名詞に比べて

¹ 『日本語歴史コーパス』(バージョン 2019.11) では、1862 万短単位、255 万長単位のデータを公開している (https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/chj/chj-wc.htm2020/04/25 参照)。BCCWJ の規模は 1 億語 (短単位) である (https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/2020/04/25 参照)。

² 「通り過ぎる」や「時が過ぎる」など過剰の意味を表さないものやいわゆる「い-形容詞」などを含む。色彩名 (e.g. 赤すぎる) などは判別が難しいため「その他」に分類している。

少なく、どの年代をみてもその比率はほぼ一定であることがわかる³。それぞれの年代の割合を次の表にそれぞれ示している。このことから、少なくとも80年代以降は一般名詞によるNすぎる構文は周縁的であるが一定の割合で観察されることがわかる。

- (5) a. あの人は紳士すぎる (1991年) b. さすがに一万円では赤字すぎてかわいそうですし… (2005年)
 (6) a. 自由すぎたのだ (2000年) b. 無神経すぎる。 (1977年)

表 2 BCCWJでの割合 (%)

	1970年代	1980年代	1990年代	2000年代	全体
形容動詞可	42.3	87.2	82.7	80.1	81
一般名詞	57.7	10.3	13.5	14.3	13.7
その他	0	2.6	3.8	5.6	5.3

3. Nすぎる構文に見られるメトニミー

3.1 プロファイルシフト

認知文法では、名詞は広義のモノ (THING) を表すと考える (Langacker 2008: 23)。名詞を用いてモノを指示する際には、その名詞と結びついた、指示対象の性質を含む百科事典的知識が重要な役割を果たすとされている。Nすぎる構文では「モノ (X)」から「モノの性質 (Y)」へとプロファイルが移動することで性質の過剰を表している。つまり、通常はモノである名詞のプロファイルが、その百科事典的知識内の何らかの性質にプロファイルシフト (焦点が移動) しているのである。例えば、「トマトを食べる」における「トマト」は物体としてのトマト (X) をプロファイルしている (図1 (a)) のに対して、「トマトすぎる」における「トマト」のプロファイルは、百科事典的知識の中の何らかの性質 (Y: 味など) にシフトしている (図1 (b))。Nすぎる構文における名詞の程度性の解釈は、プロファイルシフトによって名詞に元々備わっていた性質に焦点が当たることによって成立するのである (佐藤 2019) ⁴。

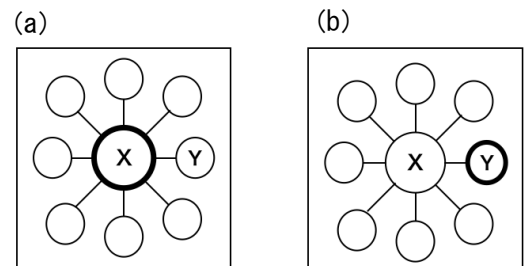


図 1 モノから性質へのプロファイルシフト

通常はモノである名詞のプロファイルが、その百科事典的知識内の何らかの性質にプロファイルシフト (焦点が移動) しているのである。例えば、「トマトを食べる」における「トマト」は物体としてのトマト (X) をプロファイルしている (図1 (a)) のに対して、「トマトすぎる」における「トマト」のプロファイルは、百科事典的知識の中の何らかの性質 (Y: 味など) にシフトしている (図1 (b))。Nすぎる構文における名詞の程度性の解釈は、プロファイルシフトによって名詞に元々備わっていた性質に焦点が当たることによって成立するのである (佐藤 2019) ⁴。

プロファイルシフトには、人間の参照点能力 (reference-point ability) に基づくメトニミーが密接に関わっている。人、もの、事態などへの心的なアクセス (注目、想起など) が、それと密接に関係していて、かつ (注目の対象となりやすいなどの理由で) アクセスがより容易な別の人、もの、事態などを經由して間接的に行われることが (言語以外の領域においても) しばしばあるが、そのような場合に、後者の人、もの、事態などは参照点と呼ばれる (西村 2002: 291)。例えば、「村上春樹を読んだ」の場合、〈村上春樹〉その人を通して、〈村上春樹の著作〉を表している。ここでの〈村上春樹〉は参照点として機能している。

Nすぎる構文におけるプロファイルシフトは、西村 (2002) の言う「単一フレーム内の異なる側面を焦点化するメトニミー」である。

³ BCCWJは1976年2005年までの刊行物が収録されており、2008年までの質問サイトやブログからの例も含まれている。

⁴ 性質に焦点を当てるとは、「選択する」とは異なる。なんらかの性質に焦点が当たっているということは、その性質を中心として意味を理解するということであり、例えば「トマトすぎる」は「酸っぱさ」に焦点が当たり理解されたとしても酸っぱすぎると等価ではない。詳しくは佐藤 (2019) を参照。

3.2 一般名詞でのプロファイルシフト

N すぎる構文で一般名詞が用いられるとき、同じ名詞が用いられていたとしても、どの性質がプロファイルされるかは様々である。例えば、(7a) はトマトの食べ物として持っている酸味に焦点が当てられる。(7b) ではトマトの見た目に焦点が当たる。「トマトすぎる」は文脈がなければ、どのような性質に焦点が当てられるのか見当が付きづらい。

- (7) a. このケチャップはトマトすぎる b. そのネックレス、トマトすぎない？
 (8) ブルーや赤のギンガムだとリゾートすぎて、少し子供っぽくなりそうだけど、茶色ならスマートで大人っぽい。 (BCCWJ)

(8) も同様である。この例の出典は婦人向けの雑誌であり、おそらく洋服の柄についての記述である。リゾート地に行く際に着て行く装いはブルーや赤のギンガムチェックなどの派手な色あいのものであるという知識を用いれば適切に解釈することができる。「リゾートすぎる」単独では、「非日常」や「トロピカル」など「リゾート」の持つ性質の一体どれにアクセスすればいいのかわからないだろう。つまり、名詞で表されるモノに特徴的な性質に焦点が当たるであろうことは予測ができるかもしれないが、どんな性質に焦点が当てられるのかが慣習化している訳ではない。

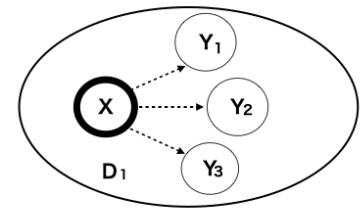


図 2 一般名詞の多様な性質

図 2 に示すようにフレーム (D₁) 内のターゲットとなる性質 (Y) は様々であり得る。それらの性質は、主に名詞によってモノ (X) を指示する際に、手がかりとなる百科事典的知識として用いられてきたものであり、通常その名詞が直接プロファイルする対象ではない。そのため、名詞を介した任意の性質へのアクセスは多くの場合アドホックなものとなる。

3.3 形容動詞ともみなしうる例

一方、形容動詞ともみなせる例は、どのような解釈になるかが文脈なしでも比較的わかりやすい。

- (9) a. 天使すぎるアイドル (= (1)) b. 大人すぎて (BCCWJ)
 (10) a. 政府案は小粒すぎよう (BCCWJ) b. 幸せすぎて離婚したんだ (BCCWJ)

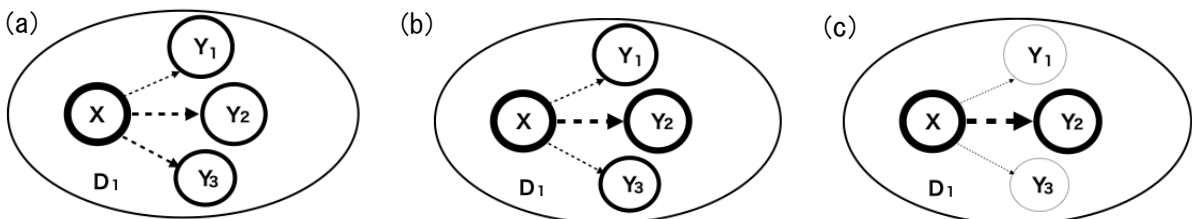


図 3 ターゲットの慣習性の度合い

これはターゲットがある程度慣習的に定まっているのだと説明することができる。例えば、(9a) の「天使」は、本発表での基準からすると、「一般名詞」に分類される。「天使」には光輪や翼などの特徴も目立つものとしてあり得るし、文脈によってはそのように解釈できるかもしれない。しかし、「可愛らしい」や「無垢で優しい」といった性質を表す用法が比較的慣習化しており、(9a) では「可愛らしさ」に焦点が当てられ

ている。図3 (a) では、フレーム (D_1) のうちの特定の性質 ($Y_{1\sim 3}$) がターゲットとなることがある程度固定化していることを図2に比べて円の太さがより太いことで示している。また、破線の矢印の太さの差で性質へのプロファイルシフトのされやすさを表している。「天使すぎる」のような例では、このように、ターゲットになりやすい性質がある程度の数に絞り込まれているとはいえ、それら以外の性質がターゲットとなることも十分にあり得る。

ある種の名詞は、ある特定の限られた性質が、モノを表すのと同程度（またはそれ以上）にプロファイルされやすいが、そのほかの性質に焦点が当てられる可能性も残している。例えば「大人」は、「おとなしいようす」や「分別がある」などの性質を表すことが定着しているが (9b)、見た目の印象などにも焦点が当たったこともある (11)。

(11) 老けて見えるってゆうか、高校生らしくないんです……。大人すぎてしまうんです。。前髪を作ろうと思ったんですけど (BCCWJ)

図3 (b) はモノ（モノとして扱う用法）である対象 (X) と同程度にある性質 (Y_2) が際立っていることを円の太さで示している。語彙的な知識として特定の性質が定着しており、それがプロファイルされやすい (図3では矢印の太さで示している) が、その性質だけがプロファイルされるとまでは言えない。

(10a) は「見識・態度・できばえなどが、あまり優れないこと」『三省堂国語辞典第七版』と記載されていることからわかるように、一定の性質に焦点が当たることが慣習化している。(10b)「幸せ」では、どの焦点が当たる性質が慣習化しており、文脈を参照しなくとも解釈できる。図3 (c) は、当該の語がNすぎる構文に現れた際に、ほぼ特定の性質だけが喚起されるような例を表している。

3.4 プロファイルシフトの消滅

Langacker (2009: 238 ff.) は、複合的な表現であっても、繰り返し使われ、話者の心の中に定着し、言語共同体の中で慣習化 (entrenched) されると語彙項目となり、そして、一旦語彙項目として認識されるようになると、その分析可能性は次第に失われる傾向にあると論じ、以下の例を挙げている。英語の pig は、石油パイプラインを洗浄したりする金属製の物体を指すことがある。そのような意味で用いられた pig を初めて耳にした人は、我々は動物の名前の比喩的な使い方として理解するだろう。しかし、もし油田で働き始め、この語を毎日繰り返し用いていたなら、ブタの概念を経由せずにその金属製の物体を指すことができるようになり、最終的には基本的な意味 (すなわちブタ) と比喩的な関係が意識されなくなる。

同様に、形容動詞に近い例である「政府案は小粒すぎよう (10a)」を理解する際に、毎回モノとしての「小粒」を経由するわけではない。過去にはモノとしての小粒を経由していたとしても、現在では「評価の低さ」に直接アクセスできるだろう。モノ (X) を経由した性質 (Y_2) へのアクセスが定着すると、拡張された意味が直接アクセスされる可能性が生じる。その後、直接のアクセスが定着することで、性質を表す用法が独立に定着するのである。図4は定着の過程を表している。(a) のように X を経由してアクセスされていた性質 (Y_2) が (b) では直接アクセスできるようになり、さらに (c) のようにモノをプロファイルする用法を意識せず性質にアクセスできるようになることもある。名詞とも形容動詞とも取れる語はこのような意味変化の過程にある可能性がある⁵。

⁵もちろんこのような変化が全ての名詞に当てはまるわけではない。

以上の分析によって、歴史的変化を自然に捉えられるだけでなく (e.g. 「緑」などの色彩語)、通常、名詞とされる語の中にも「天使」のようにNすぎる構文で用いやすいものと、「トマト」のように用いづらいものがあることを適切に捉えることもできる。

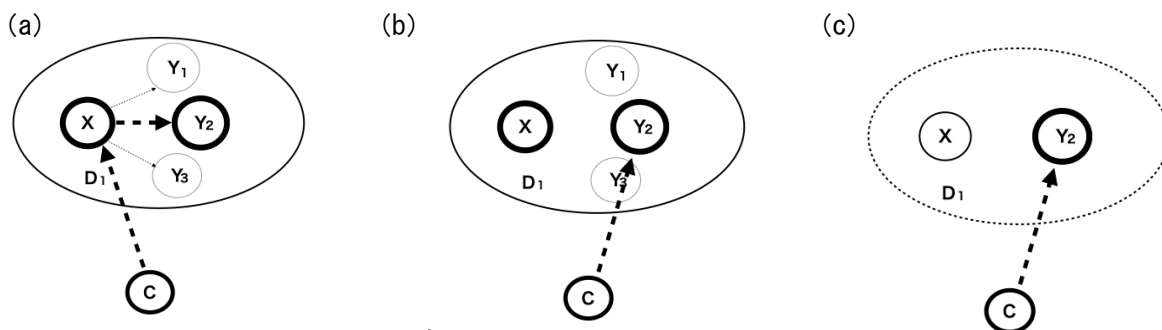


図 4 プロファイルシフトの消滅の過程

4. おわりに：名詞から形容動詞へ

ここまでの議論で、Nすぎる構文ではプロファイルシフトが起きており、形容動詞に近いものほど、どのような性質がターゲットとなりやすい性質が慣習的に固定化されている度合いが高いことを明らかにした。これは図 5 に示すように一つの連続体として捉えることができる。どのような性質がターゲットになりうるかが多様であり固定化されていないものほど名詞的である。そして、特定の性質がターゲットになりやすく、また、その性質自体がその語に関する知識の中で際立っているものほど形容動詞的であると言える。また、Deutscher (2005: Ch.7) が述べるように、具体物を指示する名詞が特定の性質を表すようになる通時の変化は自然なものである。名詞と形容動詞の連続性は、プロファイルシフトにおける焦点の移動先の慣習性として自然に捉えられるのである。このような連続性は、単一の構文環境 (ここでは「-すぎる」) で、ある語がどのように振る舞うのかを観察するからこそ扱うことができるのである。

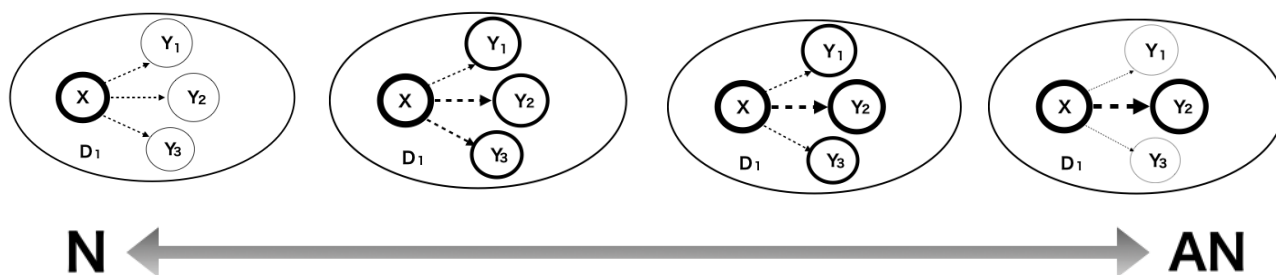


図 5 名詞と形容動詞の連続性

立川 (2020:217) は形容詞→普通名詞→固有名詞の順で、属性の数は増大し、反対に記述が当てはまる個体の数は減少すると述べる。例えば、図 6 に示すように「かわいい」のような形容詞が表す属性は一つであるが、それが当てはまる個体の数は多い。一方、「マリー」などの固有名詞は、指し示す個体は一つであるが、〈マリー〉が持つ属性は無数である。「ハーフ」のような普通名詞 (一般名詞) は多数の個体を指し示すことができ、それらの個体は多数の属性を持つ。つまり、名詞は多様な性質を持つモノをプロファイルするのに対して、形容詞は多様な個体に当てはまる一つの性質をプロファイルするという特徴がある。注意しなければならないのは、これが形容詞によって叙述される対象や、名詞によって指示される対象に関する主張ではないという点である。仮にそのように理解するならば、〈マリー〉がハーフでもある場合、「ハーフ」と

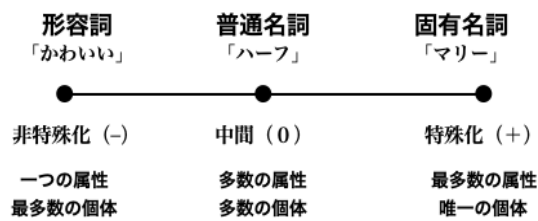


図 6 立川 (2020: 217) の主張する連続性

「マリー」の表す属性は等しいことになってしまう(さらに、〈マリー〉以外のハーフを考慮するならば、「ハーフ」の表す属性は膨大なものになる)。

名詞によってモノを指示する際には百科事典的知識が用いられることはすでに述べた通りである。一般名詞の表す属性が固有名詞の表す属性よりも少ないという立川の主張を踏まえるならば、百科事典的知識による指

示への寄与は、対象の同定にとどまらず、対象の捉え方にも及ぶことになる。つまり、名詞のプロファイルはその指示対象であるが、百科事典的知識もまた名詞の意味の極めて重要な部分を占めているのである。典型的な形容(動)詞が表す性質は、単独でアクセス可能な確立したカテゴリーである。そのような性質は決して多くはない。一方で、モノに関する百科事典的知識には、性質への萌芽が豊富に含まれている。名詞が程度性を持つとき、我々は、百科事典的知識に分け入り、新たな性質を見つけ出ししていくのである。

参考文献

- 影山太郎 (1993) 『文法と語形成』 東京: ひつじ書房。/加藤重広 (2012) 「形容動詞から見る品詞体系」『日本語文法』 15 (2) :48-64。/佐藤らな (2019) 「X すぎる構文の意味—天使すぎるはなぜ言えるのか—」 *JCLA Conference Handbook 2019*, 107-110。/立川健二 (2020) 『言語の復権のために ソシユール、イエラムスレウ、ザメンホフ』 東京: 論創社。/寺村秀夫 (1982) 『日本語のシンタクスと意味 I』 東京: くろしお出版。/中村嗣郎 (2005) 「「すぎる」構文: 書き言葉における実例の分析」『コミュニケーション科学』 22: 139-77。/西村義樹 (2002) 「換喩と文法現象」西村義樹 (編) 『認知言語学 I: 事象構造』 285-311. 東京: 東京大学出版会。/松本悠哉 (2017) 「語幹に格助詞を伴う形容動詞の用法について」『東京大学言語学論集』 38: 123-144。/由本陽子 (2005) 『複合動詞・派生動詞の意味と統語—モジュール形態論から見た日英語の動詞形成—』 東京: ひつじ書房。/Deutscher, Guy (2005) *The unfolding of language: The evolution of mankind's greatest invention*. London: Arrow。/Langacker, Ronald. W. (1993) Reference-point constructions. *Cognitive Linguistics* 4. 1-38。/Langacker, Ronald. W. (2008) *Cognitive grammar: A basic introduction*. New York: Oxford University Press。/Langacker, Ronald W. (2009) Constructions and constructional meaning. Evans and Pourcel (eds.) *New directions in cognitive linguistics*. 225-267。/Uehara, Satoshi (1998) *Syntactic categories in Japanese: A cognitive and typological introduction*. Tokyo: Kuroshio Publishers.

資料 国立国語研究所 (2019) 『日本語歴史コーパス』 (バージョン 2019.3, 中納言バージョン 2.4.2 <https://chunagon.ninjal.ac.jp/> 2019年11月6日確認) 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』 (BCCWJ: Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese)

辞書 『デジタル大辞泉』 (<https://japanknowledge.com/library/> 2020/03/14 確認) 『日本国語大辞典 (第二版)』 『全文全訳古語辞典』 『三省堂国語辞典 (第七版)』